

2026 ズバリ! 的中



世界史

慶應義塾大学

シンガポールの民族構成と独立の経緯 について述べさせる問題が的中

入試問題

2月13日実施 経済学部
大問1 問3③

河合塾

高3 2学期 世界史論述
241ページ 補説

I 関税について述べた次の文章を読んで、問1～問5に答えなさい。解答は、設問で指定された場合を除いて、すべて〔解答用紙A（マークシート）〕の所定の解答欄にマークしなさい。

関税とは、一般に、商品の輸出入に際して課される税である。その起源は古く、商業の発展にともなって関税の原型とみられるものが出現していた。

A 関税は、政府財政の収入源であるとともに、政府が輸出入に介入する手段でもある。政策や法令が輸出入に影響を与えることはしばしば見られ、ルイ14世に仕えたコルベールの重商主義政策や、B 19世紀前半のイギリスにおける穀物法などが挙げられる。江戸時代の長崎における統制貿易も、その一例と言える。

19世紀半ばの東アジアの開港に際しては、関税率の設定に関する取り決めが問題になった。C 中国は、開港と同時に欧米諸国と条約を結んで以降、関税率を自由に決定できなくなり、また日本も、開港を取り決めた条約で協定関税率を容認した。これにより、両国とも後に関税自主権の回復が重要な政治的課題となった。

第一次世界大戦後に開催された D パリ講和会議では、新たな国際秩序のあり方が模索されたが、世界恐慌を契機として国家間の対立が激化し、経済のブロック化が進んだ。第二次世界大戦後には、その反省から、自由貿易を推進する E 「関税と貿易に関する一般協定（GATT）」が発足し、後に世界貿易機関（WTO）へと発展した。

問3 下線部Cに関連して、次の資料a、bは、中国とイギリスの間で行われたある地域をめぐる交渉に関する両国の政治家の回想と発言の日本語訳からの抜粋である（必要に応じて表現を改めた）。これらの資料を読んで、以下の①～③に答えなさい。

a
9月22日水曜日朝、私は訪問先の東京から北京へと向かった。(中略) (ア) 島自体はイギリス主権の領土だが、(ア)の残りの部分と同様、水やほかの生活物資に関しては大陸に依存していた。(中略) われわれの交渉の目的は、(ア)島の主権を引き換えに、将来かなりの期間、(ア)全体を引き続きイギリス政府が管理することを求めるというものであった。これが、(ア)の政治家たちや経済界の指導者たちによく度も相談して得た結論で、これは彼らにとっても一番納得のいく解決法であった。

b
これまで何度くりかえしてきたように、中国政府が(ア)にたいする主権を回復した後も、(ア)の社会、経済制度は変わらず、法律は基本的に変わらず、生活様式は変わらず、(ア)の自由港としての地位、国際貿易・金融センターとしての地位も変わらないし、(ア)は引き続き他の国々に、地域との間で経済関係を維持し、発展させることができる。(中略) 軍隊を派遣するのは、国家の安全を守るためであって、(ア)の内部問題に干渉するためではない。(ア)にたいするわれわれの政策は50年は変えない、われわれは言ったことは守る。

(資料出所はいずれも省略する。)

③ 下線部aの自由港とは、輸出入に際して関税を徴収しない港のことであり、港湾都市全体を指すこともある。資料中の(ア)とならび、自由港としてイギリスのアジア進出の拠点であったある地域は、1960年代に分離独立し、その後、急速な経済発展を遂げた。この地域の分離独立について、この地域の名称と、その住民の民族構成および分離独立前に属していた国を明らかにしつつ、〔解答用紙B〕の所定の欄の範囲内で説明しなさい。

◆入試問題出題例◆

1965年に独立国家シンガポールが成立した。その経緯について、シンガポールの多数派住民がどのような人々だったかについて触れながら、2行(60字)以内で説明せよ。(2017 東京大学)

解答例

英領から独立後マレーシアの成立に加わったが、貿易商などの子孫を主とする中国系住民がマレー人優遇政策に反発し分離独立した。